

る地方や、灯籠踊りをおどり、山歌をうたう地方もあります。中秋節は中国の人々が家族の親睦や民族の団結、国家の統一を祈念する願いの日でもあるのです。またこの風習は、朝鮮にも伝わり「チュソク(秋夕)」と呼ばれ、ソンピョン(松餅)をお供えます。チュソク前日と翌日は公休日となり、休暇をとり帰省する者も多いそうです。さらに仏教伝来とともに多くの中国文化を受け継いだ日本では、中秋節にちなみ、穀物の収穫に感謝し米を粉にして丸めて作った月見団子を供えて月を愛でるお月見文化が浸透していったのです。

日本のお月見の風習

●十五夜と十三夜●

十五夜は陰暦8月15日(毎年変わります)。この頃の月を賞くめ>でる風習はすでに中国・唐代の記録からあって、中国の「中秋節」の影響で奈良時代に伝わり、始まったものとされます。平安時代初期に、貴族達の間で、この日の月を見ながら宴会をする風習ができ、この頃の平安貴族らのお月見は、月を直接見ることをせず、杯や池に映した月や、船に乗り水面に映った月を眺めながら和歌や音楽を楽しむ「観月宴」とか「月の宴」と呼ばれる宴が催されていました。

この月見は、本来豊作の象徴である満月に秋の七草やだんご、季節の野菜などを供えて、満月をまつる神祭りの日であったと考えられています。民間に定着するにあたっては、やはりその基礎となる習俗がありました。これが初穂祭、つまり秋の収穫祭であるとされます。春から手を掛けて育てた作物が秋

には実り、人々に大事な食料をもたらしてくれます。日本人はこの自然の恵みに感謝して、この時期いろいろな祭を行いました。特にこのお月見の時期、里芋がおいしくなります。単に名月を鑑賞するだけの行事ではなく里芋の初物を祝い収穫祭でもあり、畑作儀礼だったと考えられています。里芋はインドを中心とする熱帯アジアが原産地で、日本へはすでに稲作以前に南方民族の北進と共に伝播されたらしい古い作物で、奈良時代から栽培されてきました。

そしてもう一つ、旧暦9月13日の夜の満月は「十三夜」と呼ばれ、同じようにその美しさ愛でる習慣が日本にはあります。十五夜が古代中国からの伝来なのに対して、「十三夜」に関しては日本独特の習慣だといわれており、十三夜の習慣もとても古いようです。日本では、この両方を鑑賞するものがお月見なのであり、片方しか行わない「片月見」は良くないという伝承が各地に残っています。

伝統的なお月見(十三夜と十五夜)の飾りとしては、地域によっても異なりますが、十五夜はすすきと秋の草花やお団子(15個)、さつま芋や里芋などの農作物や柿やなしなど季節の果物を供えます。十三夜には、すすきやお団子(13個)とともに栗や豆などをお供えます。ですから、十五夜は「芋名月」、十三

夜は「豆名月」または「栗名月」といった別名もあります。鳥取県のある地域では、十五夜を芋神様のお祭りとして、芋の掘り始める日としているそうです。すすきを飾る由来は、すすきが稲穂に似ているため、稲穂そのものを飾る場合もあります。また、すすきの鋭い切り口が魔除けになるとされ、お月見のあと軒先に吊るしておく風習もみられます。月見団子の由来は、古くからの日本の代表的食物で、丁度この頃出る里芋を炊いて供えたのが原型とされているため、中国の月餅から団子に変わってお供えするようになったようです。ですから、関西の方では里芋のような紡錘型のだんごであったり、それにあんが巻いてあったりする月見団子がポピュラー。私は月見団子と言ったら白くてまん丸のものだと思っていたので、地域によって違うのだなあと面白く感じました。お供えする団子の数は、一般的に十五夜は15個、十三夜は13個とされていますが、その年に出た満月の数を供える(平年は12個、閏年は13個)という説もあります。昔は月の満ち欠けによって暦が作られ、農作業も進められていましたから、満月の数や、新月から何日目の月か(〇〇夜)ということは大きな意味があり、それが団子の数になったのです。

●お月見泥棒！？●

面白いことに、昔は多くの地方で、このお月見の日だけは、子ども達は人の畑に植わっている芋を勝手に取って食べても良かったり、縁側にお供えしてあるお団子を黙って取って食べてもいいという「お月見泥棒」という風習がありました。ただし幾らでも取っていいという訳ではなく、畑の芋なら道から片足踏み込んだ所まで、団子なら一

人一個といったようなルールもあったようです。子ども達は、箸か長い棒一本を持って家人に気づかれないように庭先や玄関先に置いてある団子をいただく、見つからないようにとスリルを楽しむ日だったのです。また、盗まれた方では「お月様が食べてくださった」と子供たちが今年も元気な印だと、喜んだようです。幼児の死亡率の高かった昔の時代には、子供たちはお月様の世界(向こうの世界)に半分暮らしているという考え方もあったのだそうです。また、「団子は多く盗まれた方が縁起がよい」、「供物の団子を盗んで食べると健康でいられる」などとも言われていました。しかし、教育上よくないという見解から、廃止になったところがほとんどだそうです。この祭事の行為の基になっている気持ちを教えようとせず、行為自体だけを問題視して教育上良くないと廃止してしまう不安の教育こそ、問題のような気がしますが。最近では、お月見泥棒が変化して、子どもたちがお菓子をもらいに回るような、まるで和製ハロウィンといった行事を行っている地域もあるようです。

●月ウサギのルーツ

日本では古くから、「月にはうさぎがいて餅つきをしている」といわれています。では、なぜ「月のうさぎの餅つき」の

お話ができたのでしょうか？

このお話の元祖は、中国の昔話にあるといわれています。中国では、中秋に兎兎爺(トルイエ)という昔の役人の格好をした泥人形が飾られます。そして、うさぎが薬をつく絵を庭に飾り、月餅を食べます。ではなぜ、こうした風習ができたのでしょうか？その由来は、さらにインドの伝説に由来しているといわれ、仏教の説話から生まれた見方のようです。諸説ありますが、1番ポピュラーな話を要約してご紹介します。

『昔、うさぎと猿と狐が道心(信心する心)を起こしたのを、帝釈天(タイシャクテン)という神様が試そうとし、老人に化けて供養を請うと、猿は木の実を、狐は魚を捕ってきましたが、何も捕るものがないうさぎは、自ら火の中に飛び込み、自分の身を食料として老人に捧げました。この事を哀れんで、帝釈は月にうさぎの形を移し、人々に知らせたのです。』というお話です。これが中国で菓草をつく月ウサギのルーツではないかと言われています。そして日本に渡って餅をつくようになったのは、「うさぎが老人のために餅つきをしている」とか「うさぎが食べ物に困らないように」という説もありますが、日本における中秋の名月が豊穰祝いであることを考えると、たくさんのお米がとれたことに感謝する意が込められているように考えられます。

●世界各国・月の模様

月は古来から、人間と深い関わりを持った天体で、文化や風習とも根深く繋がりをもち、人々は折りにつけ夜空の月を見上げてきました。月には「海」呼ばれる暗く平坦な地形があり、様々なラテンの名が付けられています。和訳すると「晴れの海」「雨の海」「静かの海」などです。1969年のアポロ11号による人類初の月面探査では、「静かの海」が着陸地点になっています。この海は、黒い色の玄武岩(げんぶがん)と呼ばれる岩石が暗く見えています。対照的に明るく見える部分は、斜長岩(しゃちょうがん)という白い岩石で、「月の高地」と呼ばれています。これらが月の模様になり、世界各国でもその国に伝わる月の伝説などと共に思いも寄らない形として表現されています。そこで、世界各地の月の模様の捉え方を一部ご紹介します。

●中国:うさぎが菓草をついている(さすが漢方の国)、ガマ、天女、一人ぼっちの女の人、桂の木とうさぎ、カニ、ワニ、巨大なヒキガエル、玉兎(ぎょくと)など。●韓国:うさぎの餅つき●インドネシア:女の人が編み物をしている●ベトナム:大きな木とその下で休む男の人の姿●モンゴル:犬、うそをつくと月の犬は吠える●カンボジア:菩提樹の木の根元に杖を持ったおじいさんが座っている●ラオス:おばあさんが足で踏み米つきでお米を挽いている●インド:ワニ、ウサギ●ヨーロッパ:木につながれたロバ、キャベツ畑の泥棒、片手だけしかないカニ、かぼちゃを食べる男、(ローマ神話)本を読む人●東ヨーロッパ:人の横顔●オーストリア:男の人が住んでいて、灯をつけたり消したりしている●ベラルーシ:月には死んだ先祖の霊が住んでいる●アラビア:吠えている(立ち上がる)ライオン●ドイツ・オランダ・デンマーク:悪行の報いとして月に幽閉された男の姿●アメリカ:女性の横顔●ネイティブ・アメリカン:ワニ、トカゲ●南部アメリカ:ワニ、荷を運ぶロバ●カナダ:月に飛びついたカエル 本当に見方は様々で、その土地の文化や国の象徴、神話などから生まれたのだらうなあと想像がふくらみます。闇夜を照ら

す美しい月は、世界中で愛されている自然の一つですね。また、満月に産が多いなどの生体とのメカニズムの関係や、陰陽思想などの考え方からなのでしょうか、月は女性を象徴しているという考え方があるので、世界中で共通して「女性の横顔」という見方もありました。

今年の十五夜は10月3日(土)、十三夜は10月30日(金)です。実は、この日の月は必ずしも満月とは限りません。むしろ満月であることの方が少なく、これは月と地球の公転軌道の関係で、新月から満月までの日数が15日とは限らないために起こります。今年は、中秋の名月(十五夜)より1日遅れて10月4日が満月です。みなさんの中にも、おいしいお月見団子を用意して、お月見を心待ちにしている人もいることでしょう。家族で月を眺め、いろいろな月の模様を想像してみたり、忙しい日常にはなかなか話せない心の内を語り合ってみたり、そんなひとときを過ごすのもすてきですね。晴れることを願って、秋の夜長をお楽しみください。



携帯電話で見ることの出来る商品カタログができあがりました。

携帯電話WEBで <http://www.wic.gr.jp/goods/>へアクセスしてください。

会員の方からご要望のあった、携帯電話で見ることの出来る、モバイルウェブカタログができあがりました。スタッフの素人並みの技術で、一生懸命作りました。各種携帯電話でテストしましたが、もし不具合やご要望がありましたら、ぜひご一報ください。最新の情報が更新されていますので、取扱中止商品などの確認にもお使いください。

現在はカテゴリー別にて表示できるようにしています。①トップページからカテゴリー別をクリックすると、カテゴリー一覧が表示されます。

②各カテゴリーをクリックすると、サブインデックスに移動し、登録数の多いものは10件以内に分割したメニューが有ります。ご注文はそこに表示されている商品コードと商品名の情報をコピーして、メールに貼り付けてサークルまでご注文ください。ご注文はもちろん郵送やファックスでも結構です。

メールアドレスは pal@wic.gr.jp です。

メールでのご注文の際は(表題) 会員番号/氏名/電話番号を必ず表題にご記入ください。表示例(メールに貼り付ける商品情報はこの部分です。)(商品コード)330-001 (会員価格)¥1,620 (一般価格)¥1,800 ナチュラルウオッシュパウダー(洗濯用)1.2kg 注文数 1 (最後に注文数を必ずご記入ください。) ※PCからはオーダーページで直接ご注文ができます。